

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名（県立名張高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「自律」「協調」「創造」を校訓とし、総合学科の特色である人間性と専門性を育成し、地域に信頼され、社会で活躍できる人材を輩出する学校。
(2)	育みたい 児童生徒像	○ 4つの力 ・ 「気」 挨拶がしっかりできる。端正な服装ができる。時間をきっちり守れる。 ・ 「心」 自分の力で取捨選択し、他者と協調協力して物事をすすめる。 ・ 「体」 部活動や地域との活動に励み心身を鍛える。 ・ 「技」 特技を伸ばす。資格を取得する。進路を実現する。
	ありたい 教職員像	○ 生徒とともに ・ 信頼 生徒との信頼関係が構築できる。 ・ 授業 授業を中心に生徒の人間性と専門性を高めることができる。 ・ 相談 学習の躓きや日頃の悩みに耳を傾け、粘り強い支援と指導ができる。 ○ 保護者・地域社会とともに ・ 信頼 保護者との信頼関係が構築できる。 ・ 連絡 日々の様子や変化を的確に連絡できる。 ・ 情報 希望する進路が実現できるよう早め早めの情報提供ができる。 ○ 教職員とともに ・ 授業改善、業務の効率化、円滑な引き継ぎ、研修参加、研究発表等、より良くすることで「働きやすい職場」と「働きがいある職場」をつくる。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		＜生徒＞ 生徒アンケートの結果、生徒の約40%が就職を希望し、約30%が専門学校、約30%が四大・短大への進学を望んでいる。授業、学校行事、部活動を中心に教育活動のすべてに対する期待度が高い。 ＜保護者＞ 保護者アンケートから学校目標や教育目標への理解度は高い。多様な進路に対応し進路実現を可能にしてくれる学校になってほしい。家庭学習の充実を求める声がある。 ＜地域＞ 地域を支え、地域をリードする力を持った人材の輩出
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	＜家庭＞ 生徒全員が安心・安全に学べる環境と校風。 ＜地域＞ 信頼できる学校から、学ばせたい学校への進化。 ＜就職先＞ 卒業生や勤務先の先輩からの期待を裏切らない人材の輩出。 ＜進学先＞ 学ぶ力と志を備えた人材の輩出。	＜家庭＞ 基本的生活習慣の確立。本校教育方針へのさらなる理解と協力。 ＜地域＞ 学校と地域が共働した取組みへの推進。 ＜就職先＞ インターシップ、進路講話への協力。 ＜進学先＞ 高大連携授業、進路講話への協力。

(3) 前年度の学校関係者評価等	○ 総合学科の教育課程経営とキャリア教育 担任団・学校運営部・進路指導部が中心となり、多様な生徒の興味・関心・進路に対応した総合学科の教育課程経営が行われている。創立 100 周年を超える名張高等学校の伝統が、生徒に安心感を与えているのは大きな強みであり、それを活かし、細やかなキャリア教育の展開が図られている。生徒が教職員を信頼していることも態度から感じられる。極めて高く評価したい。引き続き、生徒の興味、関心、能力を十分に引出し、自己実現、進路実現がなるよう、教育に取り組まれない。また、生徒・家庭・社会から何が求められているか、その認識を不断に努め、経営改善を継続していただきたい。信頼を維持するだけでもたいへんなことだが、地域からの要望にもあった「信頼できる学校から、学ばせたい学校への進化」が課題となろう。 ○ 確かな学力の向上に向けて、学ぶことの意義を認識させる教育 進路の違いに関わらず必要な基礎学力充実のための取り組み、SHR 学習、読書習慣の確立につながるビブリオバトルや図書館利用、英語の音読など、言葉への取り組みが充実している。極めて高く評価できる。しかしながら、家庭学習の時間をしっかり確保できない生徒が散見される。教科の勉強が生活するための思考力とつながることに気づかせ、学びへの意欲をさらに喚起する必要がある。キャリア教育のさらなる充実をはかり、生徒に学びへの目的意識を持たせることも有効であろう。日常的には、教員への信頼感、親近感を勉強への集中力に導き、生徒を鍛えてほしい。 ○ 豊かな心と健康な体の育成のための多彩な教育活動 基本的な生活習慣の確立のため、生徒への遅刻指導や健康管理に力が注がれ、それが生徒の清潔感を生んでいる。これは生活指導に留まらず、生徒一人一人の生きる力の涵養を図っている姿でもある。極めて高く評価できる。また、学校行事や人権学習等も充実しており、生徒の満足度も高い。このような取り組みが、生徒のよりよい未来を拓くものであることを、生徒自身に認識させていく必要がある ○ 信頼される学校づくりと広報活動 名張高校の優れた教育活動を、地域・社会にアピールすべく、広報活動の充実が図られた。家庭や地域、関係機関との連携のために、今後も継続した情報発信の充実が望まれる。特に、情報発信元として、ウェブ・ページの重要性を指摘しておきたい。読み手が名張高校の教育の良さを感じ取れるような情報発信内容と、その方法に工夫がなされると良い。
(4) 現状と課題 教育活動	○ 授業・学習指導 学校全体に授業に集中できる雰囲気がある。しかし、家庭学習の習慣がなく、理解度が深まらない生徒も多い。能動的に学ぶ生徒を育てるために「授業改善」に継続的に取り組む必要がある。 ○ 学級指導 学年団の高いチームワークによっていじめのない学級がつくられ、生徒は安心して登校している。しかし、不登校傾向のある生徒、心身に課題のある生徒等、生徒対応に苦慮する場面も多い。「カウンセリング手法」の習得や「保護者対応」のノウハウを学ぶ機会が必要である。 ○ 生徒・安全・健康指導 組織的な指導力の高まりの結果、命や人権を大切にする指導が適切に行われていると感じる生徒が 90%を超えている。しかし、軽率な発言や周囲への配慮を欠いた行動が依然としてある。生徒の心に響く「講演会」を継続して行う必要がある。 ○ 進路指導 生徒の進路実現に向け組織的な取り組みが構築されつつある。情報提供、補習、学習合宿、進路講演会など時期を逃さず行っている。しかし、生徒の本気に火がついていない。本質的かつ先進的な取り組みを行っている学校、教員から学ぶことで総合学科名張高校のブラッシュアップを図りたい。

	学校運営等	○ 教育活動全般 入学満足度調査の結果、肯定的な回答が1年次 88%、2年次 68%、3年次 80%となった。組織的な取組みの継続と教員一人ひとりの頑張りが数値として現われた。一方で、2年次の満足度の落ち込みが続いている。この原因がどこにあるのか「教育課程及び授業内容」「学級指導」「進路指導」「学校行事」を中心に課題を明確化し、優先順位を決めて改善策を実行する。
--	-------	--

3 中長期的な重点目標

教育活動	○ 授業 生徒の確かな学力の向上を図るため、すべての教員は積極的に授業改善を進め「わかる授業」と「将来につながる授業」を行う。 ○ 指導 豊かな心を育成するため、教職員は人権教育を柱に安心して学べる学習環境を整える。規範意識をさらに高め、生徒の自己肯定感・自己有用感の醸成を目指し、粘り強い指導と支援を行う。
学校運営等	○ 働きやすさ 無駄な仕事はやめる。①名張高校にとって良いことで現在実行していることは「継続する」。②名張高校にとって良いことなのにできていないことは「すぐ始める」。③すぐにやめた方がいいことは「すぐやめる」。業務の効率化と円滑な引き継ぎによって「働きやすい」名張高校を目指す。 ○ 働きがい 会議時間を縮減する。①早め早めの連絡調整を徹底することで会議時間を短縮する。②各種委員会での議論を深め、委員会から改善案を提案し、改善策を実行に移す。③空き時間は教材研究に集中できる組織風土を育てる。各部各学年が約束し責任を果たすことで「働きがい」のある名張高校を目指す。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
確かな学力の向上	(1) 学習習慣の確立と基礎学力の定着 ① 1 学年 「SHR 学習の実施 (One Week トライアル・漢字・百マス計算・読み物等)により、学習習慣を確立し、基礎学力の定着を図る。」 【成果指標】 a 学年末の基礎力診断テストの結果、GTZ の D3 の生徒数を 50 名 (全体の 25%) 以下 b 漢字検定の合格者を 80 名 (受験者の 40%) 以上		※

確かな学力 の向上	② 2 学年 「次年度の進路実現に向けて、SHR 学習及び総合的な学習の時間において、基礎力診断テストの事前課題である『One Week トライアル』に取組み、基礎学力の向上を図る。」 【活動指標】『One Week トライアル』を 2～3 週間前に配布し、SHR で毎回取組むとともに、総合的な学習の時間においても各回各教科 1 時限ずつ解説し学習する機会を設定する。GTZ が D3 の生徒に対しては、担当教員が重点的に声かけを行い支援する。状況に応じて補習を実施する。 【成果指標】基礎力診断テストの結果、全員が GTZ の D2 以上。 (参考:1 年次 D3 の生徒 第 1 回 29 名→第 2 回 52 名→第 3 回 38 名) ③ 3 学年 「進路指導を充実し、進路指導に対する生徒満足度の向上を図る」 【活動指標】進路指導に対する満足度、“満足した” が 85%以上 【成果指標】満足度調査を実施し、『名張高校の進路指導に満足しましたか』に”とても満足した””満足した”と回答した合計数。 (2) 授業改善 (教育運営部) 「思考力・判断力・表現力が育つよう授業改善を行い、生徒が能動的に学ぶ授業を実践する。」 【活動指標】各教科の実施状況、達成状況 (3) 進路実現 (進路指導部) a 希望進路の実現 「進学では、学習合宿の実施や進学課外を充実し、第 1 志望の進路先への合格 90%を目指す。就職では、就職対策講座の実施や面接指導の充実を図り、第 1 次内定率 90%、3 月末内定率 100%を目指す。」 【成果指標】第 1 志望の合格率, 1 次内定率および 3 月末内定率 【参考】H29 第 I 志望の合格率 89% 1 次内定率 93% 2 次内定率 100% b 基礎学力の定着 「3 年間で 7 回の基礎力診断テストを実施し、生徒の基礎学力の定着を図るとともに、基礎学力と進路実現との相関関係を分析することにより、教員の共通理解の基盤として低学年からの進路指導に活かす。 【成果指標】学習到達ゾーン上昇者数 【参考】H29 上昇者数 1 年→49 人→99 人 2 年→71 人→6 人		※ ※ ◎ ※ ※
----------------------	--	--	--

豊かな心の育成	(1)「基本的な生活習慣の定着と確立」 ① 1 学年 「社会人として必要な素養を身につけさせるために、進路を意識した働きかけを行うことで、欠席・遅刻の習慣化を防止する。」 【成果指標】 ア 年度末の皆出席者を 80 名（生徒数の約 40%）以上 イ 遅刻総数年間 150 回以内(遅刻指数：0.75) ② 2 学年 「社会人として必要な素養を身につけさせるために、進路を意識した働きかけを行うことで、欠席・遅刻・提出物の遅延の習慣化を防止する。」 【活動指標】 SHR・LHR 等での指導（手帳への記入含む）、定期的（10 回程度）な学年通信等での提示、定期的（考査 1 週間前及び長期休暇前）また必要に応じて学年集会を行い、未提出物の確認及び提出に向けての指導をする。 【成果指標】 ア 2 年次末の皆出席者 80 名以上 （参考：1 年次皆出席者 79 名） イ 遅刻総数年間 150 回以内(遅刻指数：0.75) （参考：1 年次遅刻総数年間 186 回） ウ 未提出物 0 ③ 3 学年 「社会人として必要な素養を身につけさせるために、進路実現また来年 4 月以降の新生活を意識した働きかけを行うことで、欠席・遅刻の習慣化を防止する。」 【活動指標】 定期的な学年通信等での提示、SHR・LHR での指導、定期的な学年集会での指導 【成果指標】 3 年次末の皆出席者 75 名以上 （昨年度皆出席者 74 名） 遅刻総数年間 200 回以内(遅刻指数：0.87) （参考：2 年次遅刻総数年間 252 回） (2) 生徒の変容把握 （人権教育推進部） 「人権学習 LHR 後に実施する個別面談をとおして、部落差別問題をはじめとした人権諸課題について、生徒一人ひとりの認識や生活課題を把握し、学習を通して、生徒が変容していく姿を把握する。」 【活動指標】 面談年 3 回実施。（ただし 3 学年は 2 回） (3) 疾病の早期発見と命の大切さを考えることのできる心の育成（保健部） a 「全生徒の健康状態を把握するとともに、疾病の早期発見に努める。特に、歯科保健について自ら管理ができるようにする。」 b 「生徒が自他ともに命の大切さについて深く考え、自分も他人も大切にすることができるようにする。」 【活動指標】 歯科検診の 100%実施を目指す 各学年とも保健講演会を行い、事前事後アンケートを行う。 【成果指標】・健康診断実施統計で評価する アンケートで理解が深まったと答える生徒 95%以上	※ ※ ※ ◎ ※
---------	--	--

豊かな心の育成	(4) 時間厳守 (生徒支援部) 「年間登校遅刻者数の減少」 【成果指標】 登校遅刻 500 人以下 授業遅刻 500 人以下 (参考) 平成 29 年度 登校遅刻 557 人 授業遅刻 641 人 平成 28 年度 登校遅刻 957 人 平成 27 年度 登校遅刻 1526 人		※
改善課題			
(年度末に記載)			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
職員充実度の向上	(学校マネジメント委員会) 「より働きやすい職場にするため、働き方改革の取組を進める。」 【活動指標】 組織力向上に関する話し合いの実施 改善提案の実施件数 定時退校日の設定(月あたり1日) 部活動休養日の設定(週あたり1日) 会議時間の縮減の具体的取組の設定 (「会議スマートルール」に沿った会議運営を行い、 60分以内に終了する会議の割合60%以上) 【成果指標】 時間外労働時間の縮減の設定(月あたり4時間) 休暇取得日数の増加日数分の設定(年あたり2日分) 月80時間を超える時間外労働者をのべ25人削減	(年度末および適宜記載)	※
情報提供による信頼の構築	(総務部) a 学校行事 「学校行事の充実」 【成果指標】 行事後のアンケートで満足度を調査 満足した(楽しめた)生徒82%以上 b 読書習慣と情報活用能力の育成 「図書館利用の拡大」 【成果指標】 貸出率、利用率、授業での図書館利用数 生徒1人当たり貸出率3冊、生徒全体の利用率4割以上 授業での図書館利用数170時間以上 c 清掃美化 「教職員による大掃除」 【成果指標】 年2回以上実施		※ ◎ ◎

	d 学校紹介の充実 「名張高校を希望する中学生の数を増やす。」 【成果指標】 入門講座への参加人数 定員の 2. 4 倍以上		◎
教職員の人権 感覚の向上	(人権教育推進部) a 「校内研修 人権学習 LHR において部落差別問題を学習するにあたり、教職員一人ひとりが部落差別問題について、自分事として捉えるための研修を実施。具体的には経験豊かな教員からの実践例、体験談等をレクチャー。」 b 「校外研修 新転任者対象の校外フィールドワーク。」 【活動指標】 職員研修年 3 回以上		◎ ◎
改善課題			
(年度末に記載)			

5 学校関係者評価

明らかに なった 改善課題と次へ の取組方向	(年度末に記載)
---------------------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動につ いての改善策	(年度末に記載)
学校運営につ いての改善策	(年度末に記載)